
名言集

酔仙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

名言集

【コード】

N0605Z

【作者名】

酔仙

【あらすじ】

この名言集は、自分の作品の中から「これは名言だ」と思った物を抜き出した物です。

あらためて自分の作品を読み返してみると、いつの間にかもの凄い名言を書いているな？

つてことが随分と多くあり、名言集を作らないと勿体ないと思い、作ってみました。

書いている時は気が付かなくても、あらためて読み返した時、

心に突き刺さる、何時までも心に残る言葉つてある物なんですよ。そう言う物を名言と言い、それが読んだ人の人生の道標になるのだと思います。

作家司馬遼太郎はこう書き残しています。

「人の歴史は言葉が紡ぐ」作品の中にも歴史があり、そのキャラクター達の歴史は言葉が紡いでいるのです。そしてあなたの歴史もまた言葉が紡いでいるのです。

魔法戦記リリカカルなのは To be tomorrow の名言集（前書き）

魔法戦記リリカカルなのは To be tomorrow の名言集です

気になる言葉があったら、もう一度作品を読んでみてください。
きっと新しい発見があると思いますよ。

魔法戦記リリカカルなのは T o b e t o m o r r o w の名言集

魔法戦記リリカカルなのは T o b e t o m o r r o w の名言集

第1話 プロローグ より

(無理だ、しらふのあの人に頭で勝てるとは到底思えん)

シグナムがレティ本部長を評して言った言葉、
彼女が如何に頭が切れるかを端的に表している。

(主の立ち回りの巧さには、正直呆れる)

シグナムがはやての変わり身の速さに対して言った言葉、
はやてちゃんはとっても出来る人なのです。

第2話 特別戦技教導学校 より

「期待しているぞ、高町教導官」

シグナムがなのはに対して言った言葉、
なのはを信頼しているからこそその言葉なのです。

「でも大きな目で見たら、機動六課を大所帯にした様な物だよね」

ヴィヴィオがママ達に対して入れたフオロ―

ヴィヴィオはなかなか出来る子だと思います。

「だってさ、よろしく頼みますよ、高町なのは校長！」

ヴィータがなのに対して言った一言、

これがスクールの原点となった。

第3話 マグドウーネル事件 より

「ごめん、もう私は……あなたを助けてあげることが出来ない」

絶望的な怪我人を前になのはは自分の力の無さに絶望する。

「諦めないで下さい！絶望しないで下さい！

あなたが絶望したら、この子まで絶望しちゃうじゃあないですか！」

絶望するなのはスバルが一喝

「そんな言葉口にしないで下さい、あなたが諦めてどうするんですか？

私に諦めない勇気を教えてくれたのは、あなたなんですよ！

諦めちゃったらそれで終わりだけど、信じれば奇跡は起こります！

絶対に奇跡を起こします！」

更に絶望するなのはスバルが言い放った一言、
そして奇跡が起きた。

「私じゃあないです、この子なんです」

目の前で起こした奇跡、スバルはなのはにその経緯を説明する。
それは新たな希望だった。

「ボサツとしてんじゃあねえ！俺たちの仕事はこの現場から生きて
いる人を少しでも早く助け出すことだ！
泣きたければ後で泣け！自分の使命を忘れてんじゃあねえぞ！この
タコ！」

絶望するスバルにヴォルツ指令が言い放った一言、
非常に厳しいけれど、それ以上スバルを悲しませない為に怒鳴った
愛のある言葉だ。

「せめて一瞬で病院に運べたなら、もしかしたら助けられたかもしれ
ない」

悲しい現実に対してスバルがこぼした一言、
その一言は school においても重要な役割を果たす。
召喚士の地位を向上させる事になる重要な言葉。

「腕の良い召喚魔導師は、転送魔法も得意なんです」

スバルの悲痛な思いに答えたのはキャラ口だった。
そしてキャラ口が先生への道を歩き始める。

第4話 親子の絆、なのはの決意 より

「あの人は魔王だ、怒らせれば血の雨が降る」

スバルとティアアナがヴィヴィオに吹き込んでいた事、
でもそれは現実だった。

「もう、怖くないよね？」

なのはが怯えるヴィヴィオに対して掛けた言葉、
そして親子の絆はよりいっそう強くなった。

「あいつらは射殺命令の出た極悪人です、それに私はその魔王の
弟子2号です！」

1号はティアアですけど……その弟子2号があなたの教えを守って数
多くの人命を救っているんです、
もっと胸を張って前を見て下さい！」

スバルが卑屈になって落ち込むなのはに言い放った言葉、
なのはに school 校長就任を決意させる事になる。

第5話 ヴォルツ指令土下座する より

「なのはさん、お願いです、あのキャロって子をうちに下さい！
あの子は命の現場には、なくてはならない子なんです！どうかお願い
いたします！」

ヴォルツ指令はそう言って土下座し、なのはに懇願した。
召喚士が如何に命の現場に必要なのかを表す言葉。

第6話 エピローグ・スバルの大演説 より

「スバル、こういう時は、あの日何があったのか、自分たちに何が
必要だったのか、
自分の言葉で思いの丈を聞いている人たちにぶつけておいで、
そうすればきっと良い演説になるから」

公聴会での演説がある事をスバルに伝えなかったなのは、
でも、それはスバルの言葉が思いがどんな演説にも勝ると見抜いて
いたのはだった。

魔法戦記リリカカルなのは T o b e t o m o r r o w の名言集(後書き

心に残る言葉、それはあなたの歴史になる。

必殺仕事人 in ヴォルケンリッター の名言集(前書き)

必殺仕事人 in ヴォルケンリッター の名言集です

気になる言葉があったら、もう一度作品を読んでみて下さい。

きっと新しい発見があると思いますよ。

必殺仕事人 in ヴォルケンリッター の名言集

必殺仕事人 in ヴォルケンリッター の名言集

第2話 ザフィーラ悲恋！ より

「済まないな、今の俺にしてやれることはこれくらいだ」

ザフィーラが被害者の女の子を弔うシーン、

それは余りに悲しい恋だった。

第3話 ヴィータ慟哭！ より

「ヴィータ、その人はなあ、優しくかったんや、優しすぎて人が憎めんかったんや、

だから自分の命を引き替えにしたんや、その人の優しさに答えてやりい」

おばあちゃんは依頼と引き替えに自分の命をそこで絶った。

「どうして」と泣くヴィータにはやてが掛けた言葉

第5話 シヤマル先生キレる より

「あの世で詫びろ」

そう言ってシグナムは悪人を切り捨てた。

「そう、これ以上あなたと話し合っても無駄なようですな」

そう言っつてシヤマルは相手を撃ち抜いた。

「あら、まだ息があるのね、じゃあ次で終わらせてあげるわ？
せめて最後までくらい、世間様のお役に立って死になさい」

シヤマルは悪人から生きたまま臓器を摘出した。

第8話 総元締め現る より

「ふっ、ゲートボールの奥技は、球でタマを打ち抜く事にある」
ヴィータ、その技は恐ろしすぎるぞ？

第9話 フェイト激怒する より

「そんな事してると行き遅れちゃいますよ」

ティアナがフェイトに言ったキツイ一言

「受け取るか取らないか？受け取ればもう後戻りは出来へんよ」
「はやてがフェイトに決断を迫る。」

最終話 より

「主、我らヴォルケンリッター6名、
何時、如何なる時も主に従い、主を守り、どこまでも供すると改め
て誓います。

例えそれが、如何なる地獄であろうとも」

仕事を解散する時、ヴォルケンリッターの6名は改めてはやてに
忠誠を誓う。

彼らの絆は何よりも強い。

必殺仕事人 in ヴォルケンリッター の名言集(後書き)

心に残る言葉、それはあなたの歴史になる。

神手物語（ゴッドハンドストーリー）〜名医の条件〜 の名言集？（前書き）

ゴッドハンドストーリー
神手物語〜名医の条件〜 の名言集です

気になる言葉があったら、もう一度作品を読んでみて下さい。

きっと新しい発見があると思いますよ。

神手物語（ゴッドハンドストーリー）〜名医の条件〜 の名言集？

第1話 プロローグより

「なんでや……なんで私の大切なものはいつも消えてしまっくんや？
なんで私はいつも間に合わへんのや!!」

捜査官になつて以来、いくつもの命がはやての前から消えていった。
そして今、親友までもが消えようとしていた。

「もしかしたら、この世でただ一カ所だけ、
なのはちゃんを救えるかも知れない所がある！」

それは希望を繋ぐ一言だった。

第2話 光よ！ より

「アリサちゃん、まだ希望が無くなった訳じゃないんだ、例え1%
でも希望があるなら、
それに全てを賭けてみようと思う、だから祈ってくれ、必ず助かる
と」

そう言つて、アリサの肩に手を置いた土郎のその手は震えていた。
土郎は祈るしかなかった、今自分に出来ることは何も無い。
ただ差し込んだ一筋の淡い光明に、全てを託して……

「判りました、お引き受けしましょう、助けられる確率は3割5分と言った所でしようが、何、うちのスタッフならやってくれますよ、逆転の満塁ホームランを期待して下さい」

安田先生、あなたは凄いです！

「甘ったれるなっ！」

シグナムが「首を刎ねてくれ」と懇願したヴィータを殴り倒した。怒りと厳しさ、愛のある一言

「仮にもお前は鉄槌の騎士ヴィータだろ！騎士として逃げることは許されん！

お前が騎士として、高町なのはにしてやれることを考える！それをやり通すまで死ぬことは許されない、そして今死ぬことは主に対する裏切りだと理解しろっ！」

更にヴィータにお説教、厳しいけれど、その中にシグナムの愛が見える。

第3話 命の重さ より

「いや、そうじゃない、このとんでもなく狭い術野の状態でよく出来たものだ、

ベテランの外科医でも普通やらんよ」

シャマルの決断と腕に驚く北見先生、これが、医師シャマルの原点だった。

(これが命……なんて重い……)

シャマルはその重さに、命の重さに戦慄した。

「あの娘にとっては良い経験だっただろうな、命の前に立つという怖さと、命を救うことの尊さを同時に味わえたのだから」

安田先生はシャマルの将来を見抜いていたようです。

第4話 断絶宣言 より

「そんなことをしてなのはが喜ぶと思ってるのっ?!
あんたが居なくなつて、それであの子が喜ぶと思っているのっ?!」

自分の命と引き替えになのはを救おうとしたユーノをアリサが窘める。

既にアリサはなのはとユーノの仲を認めているようだ。

「良かった、助かって本当に良かった」

なのはの命が助かった事に安堵する両親、

親としてなのはを如何に愛しているかよく分かる。

第5話 交渉 より

「もう良いわ、このまま行ったら高町家や不破一族と管理局の全面戦争になるから、

もう知らないわよ、一体何人の局員が死ぬのかしら？」

管理局を震え上がらせるのに最適な一言

第9話 決戦 より

「お前ら、構えるくらいの時間を与えてやる、

構えていない奴を殺すのも気が引けるしな、あいつみたいに」

なのはの事をバカにされた恭也は容赦なく必殺技をお見舞いする。

「おめでたい奴だな、殺されたのにも気付かないとは？お前はもう死んでいるんだよ」

斬られた事にも気が付かないほどの斬撃、それを見舞っておいての一言

「小役人め」

なのは襲撃犯の正体を聞いて士郎が呟いた一言、ここに全てが集約されている。

第10話 目覚め より

「ああ、そうだね、本当に大変なのは手術よりも、その後のことだ」
森先生が介護シンドロームを指摘する。
手術より、その後のケアの方が実は大変である。

第11話 絶望 より

(まだ、誰にも見せたこと無いのに……)

おむつにバルーン、なのはの大事な所は大変な事になってた。
本人としては精神的に一番ショックな出来事だっただろう？

第12話 死ニタイキモチ より

「もう、良いよ、こんな関係！もうやめてよ、これじゃあ私が惨めすぎるじゃないっ！」
もう嫌だよ！こんな生活っ！何時になったら私は治るのっ？
いつまでこんな思いを続けなければならないの？
もうやだよ！もう嫌なんだよっ！お願い！死なせてよ！」

入院の辛さからとうとう感情を爆発させてしまったなのは、
セットアップによる発作で自殺しようとする。

第13話 つぎはぎの命 より(13話は、殆どの台詞が名言です)

「本当は怖かったんだよね？誰にも判って貰えなくて、誰にも相談出来なくて苦しかったんだよね？
本当は誰に相談したらいいかも判らなかつたんだよね？」

シャマルはなのはの心を優しく受け止める。

「ずっとそうやって生きてきたんだよね？だから誰にも相談出来なかつたんだよね？」

優しい言葉をかけられて優しく抱きしめられて、なのははシャマルの胸で泣いた。

「なのはちゃん、なのはちゃんの命は、なのはちゃん一人の物じゃないの、
ここにいる、みんなのいえ、なのはちゃんに少しずつ命を分けてくれた人みんなの物なの」

そう言つて語り始めたシャマル、あの時の真相を伝える為に

「手術の時にね、なのはちゃんの全身の血液全てを入れ替えるほど血を使ったの、
その血を使つて、安田先生と北見先生が、なのはちゃんの命を繋いでくれた。
ここにいる人だけじゃない、血を分けてくれた人、手術をしてくれた先生達、

誰一人欠けてもなのはちゃんは助からなかったの、だから、今のなのはちゃんは、つぎはぎの命なの」

なのはの事をつぎはぎの命と例えるシャマル。

命の尊さを知るシャマルだからこそ言える台詞だ。

「そう、血を分けてくれた、命を分けてくれた人のその少しずつの分け前と、

みんなの思いを先生達が縫い合わせてくれたつぎはぎの命、でもね、ただの継ぎ接ぎじゃあないのよ、なのはちゃんの努力次第で、美しいキルトにだって成れるの、だから死ぬなんて言わないで、諦めたりしないで、辛かったり、苦しかったり、悩み事があったら相談して、

あなたは一人じゃない、一緒に頑張ってくれる仲間がいるの」

この言葉はやがてかけがえのない物へと変わっていく。

「シャマルさんの手はもの凄く温かいの、もの凄く大きくて、もの凄く暖かい、

まるであの時助けてくれた女神様みたい」

そしてシャマルは神になる。

「叩いたりして悪かったわよ、臭いが嫌なら自分で消しときなさいよ、

自分で出来ることは自分でする！」

ツンデレなアリサのそれでもなのはを思う気持ちの出た一言。
いかにもアリサらしい。

第14話 リハビリ より

「うん、判ってる、判ってるけどなんか違う気がする。
今は頑張る時なんだと思う、頑張って、どうにか歩ける様になりた
いの、
余り迷惑掛けたくないから……」

自分の目標を見つけたなのは、甘えて欲しいと母に言われるも……

第15話 桃子の企み より

(ユーノ君の背中ってこんなに広がったんだ?)

ちよと新鮮な思いをするなのは、彼の背中は温かくて広がった。
やがてそれは恋となり、愛へと昇華する。

第16話 退院 より

「いや、患者さんを完璧に手術出来るのは当たり前のことだ、
患者さんや、その家族の心まで救えてこそ、始めて名医と呼べるん
だ。
そう考えると、あの子はもう立派な名医だ」

もうシャマルは立派な名医であると安田潤司は太鼓判を押しした。

神手物語(ゴッドハンドストーリー)〜名医の条件〜 の名言集? (後書き)

心に残る言葉、それはあなたの歴史になる。

神手物語（ゴッドハンドストーリー）〜名医の条件〜 の名言集？（前書き）

ゴッドハンドストーリー
神手物語〜名医の条件〜 の名言集その2です

気になる言葉があつたら、もう一度作品を読んでみて下さい。

きっと新しい発見があると思いますよ。

神手物語（ゴッドハンドストーリー）〜名医の条件〜 の名言集？

第17話 補償交渉 より

「ええなあ、なのはちゃんはどこまで膨らんで、私なんか先っぽがツンだけや、
シグナムは永遠の目標だとしても、せめてこの位は成長したいなあ」
そう言って美由希の胸を揉むはやて、でも其処まで成長出来なかった。

第18話 高町家の日常 より

「そうポメリーさんだからポメちゃん！」
すっかり浸透してしまったポメちゃん、良いキャラクターに成長しました。

第19話 誕生日 より

「痛いけど、それだけだから、大丈夫だから」
なのはの強い意志に、励まされたのはポメちゃんだった。

第21話 裁判 より

「このミッドチルダを、せめてミッドチルダだけでも、安全で安心して暮らせる世界にしてみせる。
亡き妻の願いでもあった、子供が働かなくても済む世界にしてみせる」と」

レジアス長官は決して悪だった訳ではない、でも焦りからだろうか？
手を結んではいけない者達と手を結んでしまった。
それがあのような悲劇へと向かっていく。

第22話 全面勝訴 より

「仕方ないじゃないか？これが裁判という物だ」

裁判の原告なのに、裁判の主人公の筈なのに蚊帳の外なのは、
不満を漏らすのが士郎に窘められてしまう。

第23話 婚約……「高町なのはは俺の嫁！」 より

「実はね、もう向こうのお家の方と話し合って公認しちゃったの」

桃子さん、強引になのはの将来を決定！

「でも嫌じゃないよ、これ大切にするね」

なのはも受け入れました。

第24話 明るい老後計画 より

「あの子が如何になのはを愛しているか良く判ったわ、そんな彼だから、なのはをお願いしますって頼みたかったの」

桃子さんはユーノ君の本質を見抜いていましたね。

第25話 婚約狂想曲 より

「後は美由希ちゃんが彼氏を連れてきてくれれば、高町家は安泰よ」
桃子さんは高町家の将来を設計しているのだった。

第26話 アメリカへの夢

「別にええよ、ちょう寂しなるけどそれは神様がシャマルに与えた
試練や、
それを邪魔するつもりはないし、邪魔したらあかんと思う」
「やっぱりはやてちゃんは器が違う！」

「別にええやん、喜んでそうさせて貰いい、恩返しはお医者様にな
ってからや」

こうしてシャマルは日本を飛び出す事になる。

第28話 権力 より

「奴のプライドを木っ端微塵にしてやるのさ、もう立ち直れないほどに、」

その上で彼女を救う事が俺には出来る、俺を信じる！」

安田潤司を怒らせてはいけない。

第29話 対決 より

「本物のなのはちゃんは確かに助かっているけど、ここに居るなのはちゃんは、」

ただのデータかも知れないけど、確かに生きて居るんです！だから救いたい！

もう、あんな悔しい思いはしたくないんです！」

シヤマルさん、あなたは神や！

第30話 破滅 より

「非常に言いにくいんですが、余り大した腕ではないと思いました。教授から学ぶ物は何も無いと思います」

シヤマルさん、ばっさり斬り捨てましたね？

第32話 暴走 より

「なんかね、男の人が溜まってる物を出すとすっきりするみたいなものだっって言ったの」

でね、男の人って一体何が溜まってるの？」

シャマルさん、純真なのは何を吹き込んで居るんですか？

神手物語(ゴッドハンドストーリー)〜名医の条件〜 の名言集? (後書き)

心に残る言葉、それはあなたの歴史になる。

神手物語（ゴッドハンドストーリー）の名言集（前書き）

ゴッドハンドストーリー
神手物語の名言集その3です

気になる言葉があったら、もう一度作品を読んでみて下さい。

きっと新しい発見があると思いますよ。

神手物語（ゴッドハンドストーリー）〜名医の条件〜 の名言集？

第34話 手術室の女神 より

「見捨てるんですか？この子はまだ生きて居るんですよ！
この子の命はまだ生きる事を諦めては居ないんですよ！」

まだ、手術すれば助かる見込みがある患者を前に助けられる医師が
いない。

見捨てようとする周りに対してシャマルは一人救命を申し出る。
そして奇跡が起きる。

「お言葉ですが、学長、鍛えたものではありません、
彼女が進んで努力した結果なのです、努力こそが人を大きく成長さ
せるのですから」

シャマルを賞賛するハーパー学長、
しかし北見先生はそれはシャマルの努力がそうさせた事だと言いつ
つた。

「そうですね……一言で言うなら諦めない心、でしょうか？
患者さんが生きる事を諦めていないのに、医者が諦めたらそこで命
が終わってしまうんです、
だから、どんなに絶望的でも絶対に諦めない事、諦めずに努力する
心、

そして患者さんに対する愛情でしょうか？私は、ヴァルハラで技術

以上にそう言う心を、
ヴァルハラ魂を注入して頂いたんだと思います！」

諦めない事、諦めない心をヴァルハラ魂と表現したシャマル。
そしてそれはシャマルの心にも深く根付いている。

第39話　なのはの女神様　より

「いくら患者さんが生きる事を諦めていなくても、
医者が諦めたらそこで命が終わってしまうの、
私はそんな医者にだけはなりたくない、絶対に救う、
絶対に諦めない、そんな医者になれるように努力するつもりよ」

シャマル先生の決意はやがて神とさえ例えられるようになる。

第40話　救えなかった命　より

「私は無力だ……」

目の前で起きた交通事故、それを止められなかったなのは、
もし魔法が、バインドが使えていたら誰も死なずに済んだかも知
れない。

自分の力の無さに落ち込むのはだった。

第41話　無力な私　より

「私がああ場で魔法を使えたなら……」

もつと早くあの車に気付いていたなら、誰も死なせずに済んだかも知れないの、
なのに私は……誰も助けられなかった……もつと私に力があつたら、
せめて、この手の届く所にいる人くらいは守り抜ける力が欲しい！
誰も死なせる事のない、悲しませる事のない力が……
今の私は無力すぎるの……」

自分の無力さに涙するなのは、その思いは御神の教えにも繋がる物
だった。

(この子も立派な御神の戦士だ、立派に御神の心を受継いでいる)

士郎はそんなのを見て自分の娘である事を、御神の一族である
事を噛み締める。

「なのは、あなたは良くやったわ、何の力もなくても二人の命を救
ったのよ、

もつと胸を張りなさい、自分で全てを背負い込まないで、もつと仲
間に頼りなさい。

あなたには頼りになる仲間がいるじゃないの？

もつと自分を信じて、自分を信じてくれる仲間を信じてあげなさい」

自分の無力さに涙する娘を抱き締めて桃子は優しく言葉を掛ける。

「あなたは私の誇りよ」

桃子が優しくそう言った。

そんな桃子の胸に顔を埋めてなのは泣いた。

第42話 優しいKiss より

「ダメだよ、なのは、何でも一人で抱え込んだら、それに僕は、そんな事でなのは嫌いになつたりしない、なのはの事が好きだから、大好きだから、一緒になりたい、結婚して一緒に暮らしたい、それだけなんだ」

ユーノ君、男です。

「そんなに改まる事はないよ、ユーノ君、君はもう我が家の家族だ」
士郎にも認められました。

(本当に済まない、なのはの事を宜しく頼む)

こうしてユーノは士郎からも厚い信頼を寄せられるようになる。

第45話 兄妹 より

「そう言うなよ、これもまた人生だ、出会いがあれば別れもある。それよりも、父さんと母さんをもう泣かせるなよ、お前が死にかけた時、本気で泣いていたからな、あの二人」

恭也さんの含蓄有るお言葉です。

第48話 神罰 より

「拒否します！この子は脳死なんかじゃない！私は間違っても人殺しはしません、

FBIに通報しますよ」

シヤマルは殺人の片棒を担がされそうになるがこれを看破、拒否する。

「死んでもいない人間から臓器を摘出なんて出来る訳無いでしょ！」

悪徳医師を一喝するシヤマル。

「言ったはずです、罪もない人間を殺させはしないと」

被害者を殺そうとした悪徳医師の右腕を吹き飛ばして一言

「殺さないで下さいね、まだ余罪がありそうですから、しっかり吐かせてから

この世の地獄を味わって貰いましょう」

シヤマル先生、あなたは凄いです、マフィア相手に一步も引き下がりません。

「組長さん、これ以上つまらない罪を重ねないで下さい、お子さんが悲しみますよ。」

それに、死ぬより辛い目に遭うという事を彼には身をもって味わって頂きますから」

それでも殺すという組長にシャマルは神罰を与えると宣言する。

「今、私に従って貰わないと、助かる物も助からなくなります」

シャマルはとうとう組長をも従わせてしまふ。

「今までアレが出た時は一度たりとも死者が出ていないんです。それ故、彼女は手術室の女神と呼ばれるんです」

これが女神の真骨頂！

「オイ、今日を限りに組を解散する！もうヤクザから足を洗つぞ！」

組長はとうとう組を解散する事を決意する。

第56話 神罰（詳細） より

「大丈夫ですよ、私はただ消えかけている命を救いたただけですから」

シャマルさん、あんたは神や！

「あなたはそんなに悪い人じゃありません、
今までの罪を悔い改めて、息子さんの為に生きて下さい。
彼にはキツイ天罰が必ず下りますから」

シヤマルさん、あなた本当に神や！

「いや、だがそれをやらない事には部下達に示しが付かない……
でも、あなたの言葉ならそれを信じて待つよ、奴にキツイ天罰が下
るのを……」

組長さん信じる者は救われるのです。

「神様が天罰を与えると仰ったのだ、もう俺たちに手は出せないよ」
もう、すっかりシヤマルの信者になりました。

「神の怒りに触れた気がした」

百戦錬磨のモルダーさんもシヤマルの怒った顔は怖かったようです。

「今から罰として、私の新しい魔法の実験台になって貰います」
そして天罰は実行された。

「人間が神に逆らえるはずはない」

モルダーさんもシャマルの信者になりました。

「恐ろしい、あれが神罰という物か……？」

普通に殺してやる方が余程人間的ではないのか？
まだ、人として死なせてやれるのだから」

組長さん、ちびつたでしょ？

「早く退院できますように」

シャマルさん、あんたはやっぱり神やあああああああああ！

神手物語(ゴッドハンドストーリー)〜名医の条件〜 の名言集? (後書き)

心に残る言葉、それはあなたの歴史になる。

神手物語（ゴッドハンドストーリー）〜名医の条件〜 の名言集？（前書き）

ゴッドハンドストーリー
神手物語〜名医の条件〜 の名言集その4です

気になる言葉があったら、もう一度作品を読んでみて下さい。

きっと新しい発見があると思いますよ。

神手物語（ゴッドハンドストーリー）〜名医の条件〜 の名言集？

第59話 女神が去った後で より

「ええ分かっています、でも、世界中にはまだ助けを待っている多くの人たちがいるんです。

私はその為に行くんです、それに私の故郷でも、私の帰りを待ち望む人たちが大勢居るんです。

だから私は、自分を磨いてきたいんです」

シャマルはそう言って大学を卒業した。

「私はまだ医者として未熟です、せめて北見先生に追い付く位、もっと確かな腕が身に付くまでは戻るつもりはありません」

そしてシャマルは茨の道を選択する。

どんなに傷付こうとも自分を磨き抜く為に一番厳しい道を選択するのだった。

第60話 なのはの家出 より

「管理局とは断絶宣言したままだ、簡単には取り消せんよ、それにお前は弱すぎる」

そう言われたのはは家出する。

「なら何故逃げた？俺の前から逃げた事自体、お前の弱さだ、弱くないと吠える事自体弱さを回りに示しているような物だ」

核心を突く一言

「もし今のまま復帰した所で、お前は今度こそ確実に殺される、それをさせない為にも復帰は認めん、復帰したかったら俺に認められる位強くなって見せる！」

士郎は父親として厳しい愛で接する事を選択した。

第62話 稽古 より

「まだ早い、まだ基本が出来てない内に教えれば、相手を殺してしまつ事もあるんだ」

格闘技とは如何に危険な物であるか？を一言で表す言葉だと思つ。

第63話 御式内の強さ より

「まだ本気のほの時も出してないわよ、御式内は本気になればもっと強いんだから」

改めて、御式内の強さを認識したなのは達だった。

第66話 御神一族 より

「そろそろ、御神に新しい風を入れる時かもしれんなあ」
行き詰まった御神一族に新たな変革をさせなければ、
このまま滅びてしまうと危惧する土郎だった。

第68話 その突きは人を殺す より

「この打撃は、中国拳法で言う所の寸勁と同じ突き方をする物だ。
簡単には習得出来んが、覚えればこれだけで必殺技になる。
ただ注意しないと、相手を殺してしまうぞ」

それは必殺の一撃、まともに食らえば命に関わる。

第72話 体育祭に向けて より

「呼吸を読み、呼吸を整え、呼吸を合わせる、それが
御式内の基本にして奥義の一つだ」

奥義とは基本を突き詰めた向こうにある技だった。

第73話 殺す覚悟殺される覚悟 より

「つまりだ、お前達に教えた技は、脇差しと同じという事だ。
何時でも殺せる力を手にしてしまっている訳だ。
間違っ使用えば確実に人が死に、自分が地獄に堕ちるだろう。
だから自覚して欲しい、殺せる技を使うという事は殺せるのではな

く、
殺すという覚悟を持って使う事を」

なのは達に覚悟の大切さを解く士郎、
格闘技をする以上は、殺す覚悟を持って技を使うべし、
それは生きる上での重要な意味を成す教えだった。

「そうだ、お前達魔導師には非殺傷設定という物があるが、
それが返って覚悟を失わせ、力に溺れ、やがて人を傷付け殺す結果
になっている。
なのはを襲った連中がそうだったように。覚悟無き力は、やがて狂
気が変わって行くのさ」

覚悟無き力はやがて狂気になる。それは、なのは達にも言える事
だった。

士郎は覚悟を持って戦う事の大切さをなのは達に伝えたかったのだ。

「難しく考える必要はない、この技を使うという事は、
確実に相手を殺すという事を自覚して欲しいだけだ。
自覚していれば、確実に殺す時しか使わなくて済むのだから」

まだ言葉の意味がよく分からないなのは達の為に士郎は分かり易く
説明する。

殺せる技を使う事は殺す当必要性がある時だけだと教える。

「そうだ、戦いに於いて常に死と背中合わせである事を忘れるな。
戦えば自分もまた傷付き、場合によっては命を落とす、

だから、戦いに臨めば何時殺されても可笑しくないのだと覚悟を決める。

殺される覚悟無くば、自ずと体が硬くなり、自分本来の動きが出来ず、

その結果、自分が傷付き、やがて命を落とす。

殺される覚悟を持って死と向き合い、

死を受け入れる事で恐怖と狂気を制する事、

自分の中でそれが出来ていれば、間違った戦い方はしないだろう」

戦いとは、まず自分が殺される覚悟を持って望まなければならない。それが出来て始めて間違った戦い方をしなくなる物だと士郎は教える。

「そう言う事だ、殺す覚悟を持って相手を制し、殺される覚悟を持って自分を制する。

それが出来るようになれば、無益な戦い、無様な戦いはしないで済むだろう」

士郎は重要な教えを説く、殺す覚悟と殺される覚悟、

この二つが出来ている限り無益な血は流さないと済むだろうと。

第74話 女神再臨 より

「いや、あなたが居たからこそ彼はマフィアを辞められたのだ。

あなたでなければ、彼の心を救う事は敵わなかっただろう、彼は、心からあなたに感謝すると……」

シャマルは命を救っただけではなかった。その家族の心まで救って

いた。
そして女神伝説は広がっていく。

「良いじゃありませんか？命を救うのも心を救うのも同じ事ですから」

シャマルは軽くそう言ったけれど、それはまさしく女神の教えだった。

第75話 奥義、吐納とくより

「なんやな、なのはちゃん見てると羨ましいわぁお父さんも、お母さんも揃ってるもん、
私は小学校一年生の時からシグナム達に出会うまでずっと一人やったし、
もう親の顔なんて覚えてないわぁ」

その後、士郎ははやて達の余りに悲惨な生い立ちに涙する。

「呼吸を読み、呼吸を整え、呼吸を合わせる、それが御式内の基本にして奥義の一つだ」

この前も今回も士郎はそう言った。
そうこれこそ奥義だった。

第83話 気配 より

「確かに俺たちは魔力を持っていない。
だから魔力その物を感知する事は出来ないけれど、魔導師の気配は分かる。」

特に強い魔力を持った奴ほど気配もまた強いんだ」

気配という新たな感覚センサーを教えられるのは達、
この先の戦いに於いて重要な物となる。

「気配は強いかも知れんが、本当の強さとはまた別問題だ。
むしろ、気配その物を読んだ方が相手の強さは良く分かる。
気配の質が違うからな」

気配が読めるようになると相手の強さも読めるようになると言う。

「そうだ、お前達魔導師は欠点だらけだ。」

その欠点がある以上は、武術の達人クラスには勝てないだろう？
近接戦闘では特に弱いとしか言い様がない」

魔導師は接近戦に弱い、士郎が指摘するとおり、それがなのは達に
弱点だった。

第84話 心眼 より

「良いか、生きている物、意思のある物、思念の籠もった物全てに
気配がある。」

まずは生きている物の気配から探すんだ」

こうして気配を読む事を身に付けていくのは達、
それがやがて花開く時彼女たちは魔王と呼ばれるようになる。

第85話 乱闘 より

「強かったんやのうて、強くなったんや、

前になのはちゃんがテロリストに刺されて死にかかってからや、

もう二度とこんな事がない様にとって、

なのはちゃんのお父さんが鍛えてくれたんや、今もまだ修行中や」

この辺りからだろうか？なのは達は強さの高みに向かって歩き始める。

第86話 奥義、無拍子 より

「そつだ、いくら霞を使っても、手を出す一瞬前には必ず気配が出る。

その瞬間、カウンターで無拍子を使う事が出来れば、何とかなるだろう」

士郎は、なのは達に対魔導師戦だけでなく、

対暗殺者を想定した戦い方を教え込もうとしていた。

「なるほど、気配と呼吸が重なる一点は、動きの重なる一点でもあるんだ？」

奥義とは、教えられた事の中から気付く物である。

第87話 告白 より

(絶対に死なせない！絶対に直してみせる！)

ジャガーに襲われ瀕死となったスーをシャマルが救う。
それは新たな物語への命のリレーとなる。

「スーは、もしかしたら障害が残るかも知れない、
そんな状態ではこのジャングルで生きていく事は出来ないだろう？
それに、彼女は俺たちに懐いている。
だから、俺は彼女を引き取って育てようかと思う。
だから、シャマルさん、彼女の母親になって欲しい！
俺と結婚を前提に付き合ってください！」

与那覇先生、シャマルに愛の告白をする！

第88話 神を超える者 より

「神が彼女の命を望んだのだ、我々は、それを止める事は出来ない
よ。
それがジャングルの掟だ」

そう、一般文明社会と彼らジャングルの民とでは、全く死生観も、
考え方も違うのだ。

彼らにとって、自然その物が神であり、神の意志には逆らっては行

けない物なのだ。

第91話 生きていたあいつ より

「一人ずつかかってきなよ、私が遊んであげるから」

彼らの神経を逆撫でする一言だった。

第92話 死闘 より

「殺しちゃ行けないの、御式内で人を殺しちゃ行けないの、御式内は人を守る為の技、人を殺す為の技じゃないの、全部教えてもらった訳じゃないけど、多分奥義には人を殺す為の技は一つもないはずなの、それが御式内の教えだから……」

この半年の間に、なのはは理解していた御式内の本質を……

「お前がもし、復帰という餌に吊られて殺していたら、復帰は認めなかっただろう、良くそこまで御式内の心を理解したな？」

士郎は決してなのはを縛り付けるつもりはなかったのだ。

管理局に断絶宣言したのも、なのはに厳しい修行を科したのも全てこの時の為だった。

第93話 裏社会科見学 より

「まあ、これで良く分かっただろう？警察関係の仕事に就けば、犯罪組織の殲滅なんて事も業務の内だ、必ず命のやり取りをする事になる。」

よく覚えておきなさい」

士郎は社会の厳しさをなのは達に教える。

神手物語(ゴッドハンドストーリー)〜名医の条件〜 の名言集? (後書き)

心に残る言葉、それはあなたの歴史になる。

神手物語（ゴッドハンドストーリー）〜名医の条件〜 の名言集？（前書き）

ゴッドハンドストーリー
神手物語〜名医の条件〜 の名言集その5です

気になる言葉があったら、もう一度作品を読んでみて下さい。

きっと新しい発見があると思いますよ。

神手物語（ゴッドハンドストーリー）〜名医の条件〜 の名言集？

第94話 それぞれのクリスマス より

（ダメだこの人、もう既に頭の中は酔っている）

レティ提督、いい加減にして下さい。

第95話 冬休み より

「だったら私もお祈りしてあげる」

スーの優しい言葉に思わず涙するシャマル、そして親子同然の絆を紡いでいく。

第96話 波^は！ より

「ええ、この子を預けるあてなんてありませんし、この子を一人にも出来ません、何があっても俺が守り抜きます。それにこの子に見て欲しい、知って欲しいんです、人間の強さ、弱さ、優しさ、汚さを、それを全て知って強く大きな人間に育って欲しい」

こうして彼女はスー・与那覇となった。

第98話 勝利 より

「私と殴り合おうとは100年早い」

フアーン先生を挑発するなのは、相手はシューティングアーツの達人だ。

それが如何に過酷な戦いなのか？身をもって知る事になる。

第101話 ファランギーナ宙域殲滅戦 より

「分かってるわよ、でもね、ちゃんと生きて帰ってきなさいよね、もう二度とあんな事はゴメンだから」

アリスの口調が厳しいが、それでもなのはの事を心配しているのは良く分かる。

第102話 更なる地獄へ より

「この先は、全て戦場の国々、そしてそれはどんどん酷い地獄になるだろう」

それはまさに地獄の光景だった。餓鬼地獄、まさにそんな光景が目の前に広がる。

食う物も食えず、殆ど骨と皮ばかりになった小さな子供達……

第103話 神の子 より

「この力は、この力では小さな傷を消す事は出来ても、

大きな怪我や重い病気を治す事は出来ないんです。まして命を救う事なんて出来ない、その程度の力なんです。それに、スーちゃんには私と同じ失敗を、挫折を味わって欲しくなかった。助けたくても助けられないという絶望を」

シャマルが医者になる決意をした理由を語る。

（思ったなんて物じゃない、伝え聞いた尋常成らざる努力も、どんな患者を前にしても逃げないその姿勢も、それだけ辛い過去に向き合っているからこそ出来る事だ。相当な覚悟がない限り、ここまで出来る医者になれる事はないだろう？）

その決意をマルク先生や他の医師達も認める事になる。

第104話 仲間 より

「こんばんはシャマル、詳しい事はよう分からんけど、何か大変な事になつとるみたいやな？」

困った事があつたら、何時でも連絡してや、私ら家族や、なのはちゃん達みたいな心強い仲間だつて居る。

シャマルはゆうてやんか？なのはちゃんが入院した時、辛かったり、苦しかったり、悩み事があつたら相談してつて、あなたは一人じゃない、一緒に頑張ってくれる仲間がいるのつて、シャマルは一人や無い！一緒に頑張ってくれる仲間があるんや！例えどんなに離れていても、信じれば奇跡は起きる！奇跡を起こすんや！」

余りの地獄に限界を訴えたシャマル、しかしはやての言葉は暖かかった。

その激励の言葉が新たな奇跡を呼び起こす。物語後半一の山場

『一人じゃない、一緒に頑張ってくれる仲間がいる』

それは、シャマルにとってかけがえのない財産になった。

(だから私は医者としてやって行けるんだ)

なのはに贈った言葉が、帰ってきた時、それは彼女にとってかけがえのない財産になった。

「でも、その責任を取っていない！あの人達に謝らなきゃいけないにもう謝る事さえ出来ない！」

戦争を泥沼化させた原因はバニングスにあるとアリサは責任を感じていた。

「違うよ、謝るんじゃないよ、

今アリサちゃんが出来る一番の支援は何か考えるんだよ、きつと出来る事があるから、

アリサちゃんにしか出来ない事がきつとあるから、

アリサちゃんだって一人じゃないんだよ、みんなが力になってくれる。

みんな一緒に頑張ってくれる仲間なんだよ」

なのはの言葉がアリサの冷え切った心を暖かく溶かしていく。

第106話 地獄へのスパイラル より

(憎しみは憎しみしか生まない、

この地獄は憎しみを断ち切らない限り何時までも続く)

そうやって何処まで行っても救いようのない地獄へ向かって落ちていく、

人間は何処まで行っても救いようのない生き物なのかも知れない。

第107話 覚醒 より

「ねえ、何故あの人達はみんなを殺しちゃうの？

何故人間同士で殺し合わなければ行けないの？

食べ物が欲しければ分けて下さいって言えばいいのに？何故？」

スーがいかにも子供らしい、

子供だからこそ何の邪念も無い、しかし核心を突いた質問をしてきた。

「スー、悲しいけれど、それが人間なんだ。

誰かの持っている物が欲しくなって、ちよつと力があればそれを奪ってしまう。」

そう言う、人が居るから争いが起きるんだ。

そう言う欲の皮の突つ張つた奴が原因で戦争になつてしまふんだ。戦争の原因なんて物はたつた一人のそう言う人間から始まつて、そう言う奴に味方する人間が集まるからこそ、争いが大きくなるんだ。

でも人間は、そう言う奴が恐いから、そう言う奴に逆らえないから、味方をするか、そこから逃げ出すしかできないんだ。

それは人間が弱いから、自分の欲にも勝てないし、恐い物には立ち向かう事さえ出来ないんだ。それが人間の弱さなんだよ」

スーを優しく抱き締めながら、与那覇先生は優しくそう話して聞かせた。

戦争の原因、それは私利私欲に負けた奴が権力を握る事、

そう言う奴の元に更に人間が集まり、やがては多くの人々を巻き込んで

大きな争いを起こしてしまう。

「誰かが鬼にならなければ、絶対的力という恐怖で縛らなければ、この地獄は収まらないだろう?」

与那覇先生はそう言った。

「争う事より、愛し合う事をもっと教えるべきだわ」

とシャマルは言った。愛こそがこの地獄を救うのだと、そう説いた。

「もう一度、習った技を反復してみるの、
例えば誰かにその技を教えてみるのも良いわ、教える事で自分も教えられるのだから」

この言葉はやがてなのはの根幹を成す言葉になっていく。

（私もいつか医者になろう、死なせてしまった人たちに謝る事は出来ないけれど、

それでも助けを求めている人を多く救う事は出来るのだから）

スーは固い決意を秘めていつもシャマルの手術を見ていたのである。

第110話 完全復帰 より

「お父さん、これで5段認めてくれるよね？完全復帰させてくれるよね？」

なのはは美由希を倒し、完全復帰を勝ち取った。

第112話 女神の帰還 より

（この世界はまだ未熟すぎる、そして何よりも戦争を防ぐ事が出来ないほど

人間の心が荒んでいる、まるでヴェルカ戦争の時の様に……）

シャマルは、戦争の犠牲という人々を見る度に、そう言う思いを

募らせるのだった。

「あの地獄を救ったのは私達ではありません、ここに居る、いえ、支援に協力して頂いた皆さんです。」

私は、あの地獄の国々の中で、こう患者さんを励ましてきました。あなたは一人じゃない、一緒に頑張ってくれる仲間が居る、だから、仲間を信じて、仲間を愛して頑張れば、必ず地獄から抜け出せると、そう言ってきました。

そして、ここに居る、いえ、支援に協力して頂いた皆さんは、我々と一緒に頑張ってくれた仲間です。

例え一人一人の力は弱くても、仲間と一緒に頑張れば、どんな地獄だってなくす事が出来る。

国だって変えていく事が出来るのです。

だから、もっと仲間を信じて、仲間と頑張れば、いつか必ず世界だって変えられると、私は信じています」

彼女の演説に何時までも拍手が鳴り止む事がなかった。

第113話 エピローグ より

「例え体は人間じゃなくても、シャマルはシャマルや、私が認めれば一人の人間や、それにシャマルは自分の幸せを捕まなあかん、

今まで不幸だった分、幸せを取り返さなあかんのや」

はやての言葉に、シャマルの頬を暖かい涙が伝う。

「私は、医者になりたい！死なせてしまった人たちには謝れないけど、
その分困っている人たちを救いたい！いつか必ずシャマル先生を超える医者になる！」

スーは医者になりたいと宣言する。

あなたには、一緒に頑張ってくれる仲間がいますか？

作者が最後に投げかけた言葉です。

神手物語（ゴッドハンドストーリー）〜名医の条件〜 の名言集？（後書き）

心に残る言葉、それはあなたの歴史になる。

思うに、ゴッドハンドストーリー神手物語の名医の条件は名言の嵐でしたね？
後から読んでも自分の作品とは思えない位の出来だったと思います。

魔法戦記リリカルなのは School! の名言集? (前書き)

魔法戦記リリカルなのは School! の名言集その1です。

気になる言葉があったら、もう一度作品を読んでみて下さい。

きっと新しい発見があると思いますよ。

魔法戦記リリカルなのは School! の名言集?

第1話 プロローグ より

「なのはの一生のお願い聞いてくれる?」

なのはが士郎に何かお願いする時の殺し文句、
士郎はこの言葉に勝てないらしい。

第3話 Oh My God! より

「Oh My God!」

ビリー先生の口癖です。

「私もそうだが、接近戦ならまず負けないし、奴らにはとんでもない
欠点があるからな」

なのはを一目見る成り、ビリーと月花はその弱点を見抜いていた。

第7話 パンツ! ACT2 より

「もっと自分に自信を持ちなさい、あなたは十分に魅力的だから」
落ち込むキャラを励ました一言

第13話 婚約者 より

「じゃあ、じゃあ、今まで私がいたから結婚しなかった、とかじゃあないんだよね？」

私がお邪魔だったから、じゃないんだよね……」

そう言っただけ泣き出したヴィヴィオ、なのはが優しく声を掛ける。

「泣かないの、別に邪魔だとか思った事はないし、きつかけさえ有れば、もっと早く結婚してたかも知れない。

でもね、体が治るまでは、結婚しないって決めてたから、

もし、私が死んでしまったら、残されたユーノ君やヴィヴィオはどうなるの？」

死んだって死にきれないわよ。

それにね、二人分の命を天秤に掛ける勇氣なんて、持ち合わせていないわよ」

ひとしきり泣いて、二人で抱き合っただけ眠った。この夜以来、親子の絆はいつそう強くなった。

第20話 午後1の授業 より

「皆さん分かりますか？これらのやり方の大きな欠点が？」

もし、現場でやられて重傷を負ってしまったら帰ってこれないのです。

そんな状態で敵に見つかれば確実に殺されます。

「これが、今まで殉職者が多かった理由です」

管理局って本当にバカしか居ないのね？もっと早く気付いてやれよ。

第28話 果たし状 より

「ははっは、なのは、あいつらを甘く見すぎて居るぞ、あいつらは自分たちを冷静に分析し、理解していたからこそ勝てたんだ。」

敵を知り、己を知れば、百戦危うからずって奴だ」

まさかの優勝者は4バカだった。でもその本質を士郎は見抜いていた。

「召喚師って、あんな使い方も出来たんだね」

感心するなのは、この後召喚士の地位はどんどん向上していく。

「だがあの発想力は大きな戦力だ、アレを伸ばしてやれば将来きつといい指揮官になる」

士郎先生も大絶賛です。

「じゃあ今回のまとめとしては、戦力に勝る相手にも、情報の分析力とアイディア次第では、充分に勝てることが証明され

たと言う所かな？」

仰るとおり、真正面から力で叩き潰すだけが戦いではありません。

第30話 アルバイト より

「やはりあの子達は違うようね、タダの馬鹿だと思っていたけど相
当な頭脳の持ち主よ」

第35話 初めての負け より

「いや、真剣にやっていますって、勇気ある降伏と呼んで下さい」

玉砕よりも降伏を選ぶのも指揮官としての努め

第36話 反省会ACT1 より

「イヤ、アレは正しい判断だ、もし本当の戦闘なら降伏じゃあなく
撤退だっただろう、

どうなんだバローロ君？」

士郎は降伏を正しい判断だと評した。

「じゃあ仮に聞くが、シグナムさん、あんたなら自分の部下に死ん
でこいと命令するかね？」

バローロの降伏に納得のいかないシグナム、しかし、士郎に窘めら

れる。

「頭を失った部隊は簡単に崩壊するんだよ、

それから部下を簡単に死なせる様な指揮官には誰も付いては来ない。真っ先に自分が……と言うのは、もし万が一自分がやられたら、部下を道連れに部隊が崩壊する事になる。

部下を死なせる様な指揮官も簡単に部隊を崩壊させてしまうんだ。だから彼の選択は正しい、部下を傷つけさせず自分も傷付かず、最後に責任だけ取るやり方こそ指揮官たる者の努めだ。

そう考えれば彼の降伏は納得行くだろうし、それが今一番自分に足りない所でもあると判るだろう?」

士郎先生の言葉はとてつもなく重かった。

この言葉はやがてシグナムやバロット、バローロの人生に最も大きな影響を与える事になる。

「だから、指揮官は判断を間違ったらダメなんだ、

自分はおるか全ての部下の命を預かっている事を意識していないと判断を間違っし、

部隊さえ全滅させてしまっ、責任は非常に重いんだ」

ピリー先生は、戦争の中で戦友達全員を失うという苛烈な体験をしていた。

第37話 反省会ACT2 より

「アレは転送魔法です、俺、転送と召喚しかできませんから」

エマルジョンコレクトの正体はただの転送魔法だった。

「通常モードの上に、エクシードモードがあつて、その上にプラスターモードが1〜3まであるの、モードが一つ上がるごとに、魔力値は3倍ずつ上がるのよ」

それが白い魔王の真実、あり得ない力。

「はやてちゃんは、通常モードで軽く5000万 Mを越えてるの、その上を使ったら、この星が滅んでしまうわ」

ロード・オブ・ザ・魔王はもつと凄かった。

第38話 反省会ACT3 より

「こつちの人には判らんネタやったな
しかし、どこでもドアに四次元ポケットとは、召喚魔導師ってつくづく便利やなあ」

そう、エマルジョンコレクトに秘密道具さえ入れておけばドラえもんとも何も変わらない。

「魔導師は、デバイスもバリアジャケットもなければ大したことは出来ません、

ただの人になつてしまふんですよ。つまり、誰も傷つけなくて済む

訳です」

それがヴァロットの優しさだった。

「敵も味方も関係なく怪我人を出さずに相手を制する事、それを目標に戦ってますから」

ヴァロットは誰も傷付けないと言う覚悟の元に試合を戦っていた。

「活人剣の世界だな、とても俺には真似出来んよ、俺の様な殺人剣にはな」

その覚悟は士郎にも真似が出来ないと評されるほど気高いものだった。

第39話 休み前 より

「本部長それ酷いです、いろんな意味で……でもあの子達はそんな落ちこぼれじゃあないですよ」

レティから酷い落ちこぼれ達と評される生徒達、でもなのはそれを否定した。

充分に優秀な生徒達だとそう言いきった。

第40話 アスティ動く より

「それはこの二人が断トツの1位だったからよ」

ヴァロットとバローロ、この二人は飛び抜けた指揮官適性の持ち主だった。

第43話 プランドを開始せよ より

「よく見ておけ、お前達が卒業後、
武装隊に配属されればこういう事もこなさなければ行けない事だ」

シグナムは武装隊がどう言う所なのかを端的に説明していた。

第45話 仲間じゃないか？ より

「だけどな、悪いのはお前じゃあない、
悪いのは大人達の方だ、お前が気にする事じゃあない」

スパイであった事、家族の事などを告白するアステイ、
だからスクールを退学し、今のバイトを辞めて一人で生きていこう
としていたのだ。

でもバローロはアステイは悪くないと説得する。

「馬鹿野郎！居場所ならここに有るじゃねえか！
それに今の事は俺たちが黙ってりゃいいことだ。居場所がないなん
て事はないんだよ」

ヴァロットも同じだった。口は悪いけれど心は温かいそんな仲間だ。

「あなたの居場所ならここにあるの、お友達でしょ？」

そう説得したのはレヴだった。

「そうだけ、俺たち仲間じゃないか？同じ釜の飯を喰ってる仲間だ、そうだろ？」

ヴァロットの暖かい言葉がアステイの胸に響く。

「こんな物出した所で辞めさせないわよ、私の生徒として預かったからには、

ひとかどの魔導師に育て上げるまでは、

絶対に辞めさせたりしないし、放り出す事もないからね」

校長先生もアステイを怒ったりはしなかった。

教育者高町なのは生徒にも愛される校長先生なのだ。

魔法戦記リリカルなのは S c h o o l ! の名言集? (後書き)

心に残る言葉、それはあなたの歴史になる。

魔法戦記リリカルなのは S c h o o l ! の名言集? (前書き)

魔法戦記リリカルなのは S c h o o l ! の名言集その2です。

気になる言葉があったら、もう一度作品を読んでみて下さい。

きっと新しい発見があると思いますよ。

魔法戦記リリカルなのは School! の名言集?

第46話 サバイバル! より

「それから、林間学校で男女の甘い出会いを……なんて考えてた人は死にますよ、
ここはそんなに甘い所ではありません、生き延びる事に必死でないと生きていけない世界ですから」

キャラ口先生、考える事が過激です。

「いや、あまりにお腹が減っていた物でつい……
それに、は虫類なら後で尻尾ぐらい生えてくるし……
て思っ、ついやっちゃったら後から隊長にこっぴどく怒られましただけだね。
でもステーキにすると凄く旨いですよそれ」

エリオ先生、どう言う食生活してたんすか？

「あ、校長先生、ここでは基本的に自給自足なんです、
狩りをしないと肉も食べられませんから、因みにこのステーキ、
クラナガンで食べたなら1枚400万ですよ、相当なお金持ちでない
と食べられません」

自給自足、それは野生の掟、弱肉強食でもあるのです。
そしてエリオ先生は、その頂点に立っていた。

第47話 裏取引 より

「とにかく生き延びる為なら、どんな汚い手でも使わないとね」
生きるとはそういう事だ！

第57話 未来を開く力 より

「私の振動拳は、どんな過酷な運命をも打ち砕く力だってなのはさ
んに言われた。

ギン姉の振動拳は、自分の意志を貫き通す力だって言われた。
君の振動拳は、未来を切り開く為の力だね」

スバルはスクラティのISを「未来を開く力」と表現した。

第62話 ユーノ・スクライア より

「魔法は使いようさ、大した魔力を込めなくても、大きな攻撃をす
ることは可能なんだ。

一見、攻撃性のない魔法でも、使いようによってはかなり大きな攻
撃力を持つんだよ」

必殺・バインドウィップ！

第65話 強くなるには？

「先生、ここはどうしたらいいのでしょうか？」

そんな質問がすぐに飛び出す、それは先生達にとっても良い刺激となっていた。

教える事は教えられる事、これこそ理想の教育。

第69話 1回戦 より

「ふつ、魔力で負けていても、戦い方の巧さでどうにでもなる物さ」
例えどんなに力があつたとしても、それだけでは勝てない。
バローロはそれを証明して見せた。

第74話 騙し討ち より

「これで判つただろう、アステイ、騙し討ちは卑怯なやり方だが、引つかかった方が悪い。
それに比べると、お前のは脅迫だ。人としてやっちゃあ成らないことだ」

戦術としての卑怯なやり方と、脅迫のような卑怯なやり方、
やって良い事とやってはいけない事の違いをアステイに分かり易く
説明するヴァロット

第78話 戦うという事 より

「そんな覚悟も出来ていないならこの場に出てくるんじゃない」

フィノに重傷を負わせてしまった事で動揺し試合にさえ成らないスクラティに対して、
ネロが激怒する。それは強烈な鉄拳制裁となつてスクラティを殴り続けた。

「立ちなさい！あなたは何故私に勝つたの？何の為に私を倒したの？私に申し訳ないと思うなら、立つて戦いなさい！そして勝ちなさい！」

手術が終わり、フィノが無理を押し付けて駆け付ける。
そしてスクラティを一喝する。

第84話 そんなバナナ~~~~~あ より

「ふ、踏みたくないのに体が勝手に……ふ、踏みたい……あつっ
そ、そんなバナナ~~~~~あ」

はい、なのはもしっかり犠牲になりました。

第93話 スバル婚約 より

「俺が責任を取る！俺がスバルを誰よりも幸せにしてやる！」
ヴォルツさんはそう宣言してスバルと婚約した。

第96話 生きる事の罪 より

「私は何て事を……」

怒りにまかせて剣を振り抜いたスクラティ、そこで大型の山猫を斬り殺してしまう。

そして殺してしまった事に罪の重さを知る事になる。

「ここは生きる事に必死でないと命を落としますよ」

キャラロ先生の言葉が突き刺さる。

「生きる事って、こんなに罪深い事だったなんて……」

スクラティは、自分の弱さを、生きる事に必死でなかった事を悟った。

「頂きます」

今その意味を体で理解した。「頂きます」の意味を、こうして消えゆく命に感謝する事を……

第100話 結婚式 より

「これからは少しずつ裏の技を教えていく、裏の技は全て殺人技だ。

殺人技は相当手加減しない限り、確実に相手の命を奪う技だ。

殺せる技を使うのではなく、殺すという事を覚悟して使って欲しい」
それは殺す覚悟の話だった。

「そうだ、お前達魔導師には非殺傷設定という物があるが、それが返って覚悟を失わせ、力に溺れ、やがて人を傷付け殺す結果になっている。

覚悟無き力は、やがて狂気になって行くのさ」

覚悟のない行いはやがて自分の力に溺れ、狂気となり、やがて人を殺す。

「格闘技とは元々戦場で生き残る為に開発された技だ。どうしてもそう言う側面を持った技がある。

それに、何も知らずに格闘技を使えば相手を傷付け、場合によっては殺してしまう事もある。

だから、殺人技を使うという事は、確実に相手を殺すという覚悟を決めて使わなければならない。

そうしなければ自分が地獄に堕ちるだろう」

覚悟とは、無駄に殺さず、自分が後悔と言う地獄に堕ちない為に必要な事だった。

「そうだ、戦いに於いて常に死と背中合わせである事を忘れるな。戦えば自分もまた傷付き、場合によっては命を落とす、

だから、戦いに臨めば何時殺されても可笑しくないのだと覚悟を決

める。

殺される覚悟無くば、自ずと体が硬くなり、自分本来の動きが出来ず、

その結果、自分が傷付き、やがて命を落とす。

殺される覚悟を持って死と向き合い、死を受け入れる事で恐怖と狂気を制する事、

自分の中でそれが出来ていれば、間違った戦い方はしないだろう」

それは「覚悟」という心構えの問題だった。

覚悟を決め、そしてその覚悟の上に技を使う事、それが大事なのだという話だった。

第112話 その頃 より

「なのはなんか格闘技の才能はほぼゼロだったんだぞ、でも滅茶苦茶な努力をしてあそこまで強く成れたんだ。

努力すればそれなりに大成する。

だから、自分を信じて目標に挑めば必ずそこに到達出来るだろう？」

とても信じられない話だが本当の様だ。自分を信じ、努力すれば必ず大成する。

必ず目標に届く日がやってくる。

魔法戦記リリカルなのは S c h o o l ! の名言集? (後書き)

心に残る言葉、それはあなたの歴史になる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0605z/>

名言集

2011年12月7日07時48分発行